

東京YMCA



創立1880年
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL <http://tokyo.ymca.or.jp>
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 星野太郎

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

私たちの願い

多様な文化と人々が交差し、新たな価値が生まれる東京。1880年に銀座で産声をあげた東京YMCAは、2030年、150周年を迎えます。長い年月の中で、私たちは多くの人たちに支えられながら、人と人を繋ぎ、社会に発信し、時に時代のパイオニアとしての役割を果たしてきました。

これまで東京YMCAが手掛けてきたキャンプ、学びの場、ボランティア、国際交流などの活動とその手法は、先人たちから受け継いだかけがえのない宝です。いつの時代にあっても私たちの活動が一人ひとりの命を輝かせ、その人らしい成長がもたらされることを願って、これからも歩みを続けていきます。

いま、東京もまた大きな変化の中にあります。社会の分断、環境問題、経済格差。生きづらさや不安を感じる人たちが増えているこの社会で、東京YMCAの役割はますます重要になっています。私たちは時代の流れを敏感に捉え、柔軟な発想と新しいやり方で、社会課題に向き合い、働きを拡げていきたいと願います。

2030年をゴールに、世界120の国と地域にあるYMCAの共通の行動目標として、「世界YMCA VISION 2030」が採択され、SDGsの取り組みとも連動する4つの柱と12の目標が掲げられています。東京YMCAもこのビジョンを東京の地において具体的に推進するために、また東京YMCAの使命を具現化するために、ここに「TOKYO YMCA VISION 150」を策定しました。

2030年に向けて、またその先の未来を見据え、東京YMCAは若い人を育て、平和で誰もが安心して生きられる社会や持続可能な環境を次世代に渡していきたい。そのためにも東京YMCAは、多くの人たちの支援と参画を求めながら、さらに強くしなやかな団体として成長し続けたいと願います。

世界YMCA
VISION2030は
こちら



— 希望を耕し 未来を紡ぐ —

東京YMCAは2030年のビジョンを描く、中期計画「TOKYO YMCA VISION 150」を策定しました。この計画は、グローバルな視点と地域に根ざした課題への取り組みを両立させるものです。策定にあたっては、ユース世代を中心とした委員11人と事務局3人で20回の会議を重ね、会員アンケートや職員満足度調査も実施しました。

より多くの人たちと計画を共有するために、「私たちの願い」と「行動指針」を明示しています。「実現させるのは私たち自身だ」という強い自覚をもって、推進していきます。

5つの行動指針

2030年に向けて、東京YMCAが「私たちの願い」に基づき活動を展開するために、また東京YMCAに連なる人々が「私たちの願い」を日々の行動に結びつけるために、5つの「行動指針」を掲げました。

1. ユースが輝く場をつくります

東京YMCAは、子ども・若者が多様な価値観に触れ、仲間とともに活動し、社会とつながりながら成長することを大切にしてきました。

東京YMCAはキャンプ、スポーツ、表現活動、日々の関わりなどを通して、子ども・若者の主体性を引き出し、仲間と協力する力や人を思いやる心を育てます。また国内外の交流プログラムやボランティア活動を通じて、社会や地域に貢献する力を育てます。

様々な理由で生きづらさを抱えている、声をあげることが難しい、そんな子ども・若者が、心地よく安全だと感じられる環境をともにづくり、一人ひとりに寄り添います。

東京YMCAは、子ども・若者が集い、生き生きと活動し、ありのままでいられる場を提供します。一人ひとりの意見を尊重し、やりたいことがかなえられるようにサポートします。

2. 地域とともに歩みます

東京YMCAは、これまで各地域センターを中心に、地域の人たちとともに、地域の課題を捉えて様々な活動を行ってきました。

東京YMCAはこれからも、誰もが安心して生活し、子どもたちが豊かに成長することを願い、地域のつながりを育む役割を担っていきます。時代に合った新しい形で、地域の課題に向き合い支え合う場を、地域の人たちとともにつくっていきます。

また、地理的な枠を超えたバーチャルなコミュニティづくりやオンラインを用いたグローバルな交流を通して、私たちの願いや情報を発信し、人々がつながる新たな機会の創出を目指します。

東京YMCAは、自然災害が頻繁に発生する現代において、地域の防災、災害復興支援の場でリーダーシップを発揮します。地域の人たち、自治体、他の支援団体とも連携し、東京YMCAの総合力を生かし、困難な状況に置かれた人々に寄り添います。

3. 多様性のある場を大切にします

東京YMCAは、世界に広がるYMCAネットワークを通じて、国や地域を超えて人と人をつなぎ、多様な価値観に触れる機会を提供してきました。また日本の中では先進的に、障がい児支援やインクルーシブ教育にも取り組んできました。

これからも東京YMCAは、違いを受け入れ尊重することを重んじ、子どもたちをはじめYMCAに関わる人々に様々な活動を通してその大切さを伝えます。多様な価値観が十分に尊重されず、不安や孤立を感じている人も多い現代社会において、東京YMCAは一人ひとりの声に耳を傾け、寄り添います。ジェンダー、年齢、国籍の違いや、障がいの有無などによらず、誰もが尊重し合い、安心して生きられることを願い、支援活動、啓発活動、情報発信を続けていきます。

特に日本社会で困難を抱えながら生きる外国にルーツのある子どもたちへの支援に力を入れ、新しい取り組みを進めます。

4. 子どもの未来のために環境を守ります

東京YMCAはこれまで子ども・若者にキャンプや野外活動や学校教育を通じて環境の大切さを伝えてきました。

東京YMCAはこれからも、子どもたちにキャンプや野外活動を通じ、また日常の様々な場面におい

て、実体験を通して環境を守る大切さを伝えていきます。このような取り組みを通じて、自然の恵みに感謝し、限りある資源を尊ぶ気持ちを子どもたちの心の中に育んでいきます。

世界各地で海面上昇や、干ばつ、洪水、熱波などの気候変動が起きています。かけがえのない地球を次世代に引き継ぐために、私たち東京YMCAは環境問題に積極的に取り組んでいきます。

気候変動の原因である温室効果ガスの削減では、2030年度に2013年度比でCO₂排出量を50%削減します。

エネルギー資源の節約だけでなく、ゴミの削減やリサイクルの徹底など、一人ひとりの小さな行動もおおそかにせず、東京YMCAに集う人たちとともに取り組み、発信していきます。

5. 活動の基盤となる組織を強くします

東京YMCAは、私たちの使命に共鳴する多くの人々の自発的な関わりと、物心両面にわたる支援により、様々な分野において社会的に意義のある活動を進めてきました。

私たちのなすべき活動を一層力強く進めるために、私たちの願いや活動をわかりやすく発信し、東京YMCAにボランティアとして参画する人たちや団体、寄付や募金で応援する人たちや団体を広く求めています。また、企業、行政、諸団体と積極的に連携し、新しい協働のあり方を提案します。

東京YMCAは組織力を強化し、団体の持続可能性を高め、私たちの総合力を最大限に活かして、東京YMCAだからこそないうる活動を積極的に展開していきます。

赤△三角

あれはコロナ禍前の穏やかな夏の日、東京下北沢の東京都民教会（歌声の集い）が開かれ、百人を超える皆さんが集った。ガザYMCAの主事たちが地域活動の現場視察として見学に来てくれ、音楽を通して平和をつくる活動を熱心に見て下さった。初対面の外国人だが、かたい握手をして別れ、YMCAのグローバルなつながりを実感した。▼「すずらん会」は、東日本大震災の際には「YMCA歌の広場」として、石巻市を中心に一泊二日の活動を延べ36日間行った。地元でも、下北沢音楽祭や駅前で開催するキャロリングinシモキタに拡大して継続され、世田谷区から表彰された。▼一方で、ガザの子どもを含む死者数が5万人を超えている。▼

昨秋の御殿場東山荘YMCA会員20年で表彰状を頂戴した。二年に一度の日本YMCA大会である。そこで、ウクライナから避難した青年の話を聞いた。彼はロシアの侵攻時、17才だった。想像を絶する命がけの避難行動は、キリスト者としての私の信条に合致する「良心的兵役拒否」だ。生きようとして頑張る彼を支援したい。▼地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために生きる。

YMCAウォーターセーフティーキャンペーン 水の事故ゼロを目指す取り組み



小学校での着衣泳指導で、
ペットボトルを抱いて浮く練習

全国のYMCAは、1981年より毎年「ウォーターセーフティーキャンペーン」を展開しています。YMCAの水泳クラスだけでなく、出張着衣泳指導や地域での「いのちを守る講習会（親子着衣泳体験）」、『ウォーターセーフティーハンドブック』の無償配布などを通じ、水辺の危険と、いざという時の適切な対応を広く周知するための取り組みです。



ウエルネスガーデン品川御殿山で、企業の社員家族向けに実施された講習会

7月8日、東京YMCAのスタッフが都内の小学校を訪れ、6年生に着衣泳を指導しました。初めに、水辺には大人と一緒に行くことを確認し、溺れている人を見た時の対応が伝えられました。その後、服を着て入水し、服の重さや水中での動きにくさを体感しました。絡まる海藻や揺れる波、足場の悪さも疑似体験しました。最後に、ペットボトルを使い、“浮いて待つ”練習や溺れた人へ投げ入れる練習をして終了。指導した宮田諭さん（山手ウエルネス）は、「自分のいのちを守り、人のいのちも大切にしながら、水遊びを思い切り楽しんでほしい」と語りました。

こうした体験から得られるリアルな感覚と心理的な備えは、水辺での安全意識の向上に寄与します。YMCAは、水上安全の推進を使命とし、小学校などで着衣泳の指導を無償で実施しています。今年度は、25校の小学校で3,093人を対象に計画（天候による中止の場合あり）し、企業の社員家族向け指導も実施しました。今後も「水の事故ゼロ」を目指して、積極的に活動を広げていきます。

『ウォーターセーフティーハンドブック』は、東京YMCAのウェブサイトからダウンロード可能です。水辺へのお出かけ前に、ぜひとも親子でご一読ください。



（広報室）

溺れている人を 発見したら…

1. 近くの人に知らせる、119番に連絡する
2. 浮く物を投げる（ペットボトル・くつ・ビニール袋など）
3. 救助隊が来るまで、溺れている人を励ます

シリーズ 資料室の窓から〈124〉 『YMCA会員の私』

本会元副総主事 齊藤 實

毎年梅雨時に手にするのが『年度事業報告書』。「わが東京YMCAはどれほどの数の会員で支えているのか」。今年、報告書第2ページの数値は3月末で674名でした。私の理解では、会員とは「会費を納め、YMCAを内側で支える協働者」です。私の入会以来79年間抱えている大事な「会員意識」です。私が入会した時は、米国王力の占領軍が日本全土に駐留



1951年～1955年に展開された「日本YMCA5カ年前進運動」における、全国共同会員増加運動参加委員章。左から、1952年、1954年、1955年のもの。

していた敗戦国日本でした。記録によれば、敗戦の夏1945年8月31日現在の会員は、369名。内訳は正会員（15歳以上の男子キリスト者）96名、準会員（15歳以上の男子非キリスト者）273名。女子が「会員」として登録されるのはずっと後の事です。私が入会したのは、1946年9月26日、19歳でした。12月に受洗して教会員となり、晴れて正会員となったのです。会員の日常は、ひとりひとりがそれぞれに「私がYMCAなのだ」という満足感があふれていました。「お客さま」はおりませんでした。同好の仲間とクラブ・グループ活動を楽しむ。ボランティアとしてYMCA運営にも参加する。それが「会員」でした。会員が総力を挙げて進める「会員募集」が、全国一斉で

も行われました。1951年務した江東ブランチ時代に、記録によれば、敗戦の夏1945年8月31日現在の会員は、369名。内訳は正会員（15歳以上の男子キリスト者）96名、準会員（15歳以上の男子非キリスト者）273名。女子が「会員」として登録されるのはずっと後の事です。私が入会したのは、1946年9月26日、19歳でした。12月に受洗して教会員となり、晴れて正会員となったのです。会員の日常は、ひとりひとりがそれぞれに「私がYMCAなのだ」という満足感があふれていました。「お客さま」はおりませんでした。同好の仲間とクラブ・グループ活動を楽しむ。ボランティアとしてYMCA運営にも参加する。それが「会員」でした。会員が総力を挙げて進める「会員募集」が、全国一斉で

は誰をいうか」の確かな定義はなく、一時的な参加者も数に入れる、つまり水増しするなど、荒っぽい数字が横行した時代でもありました。会員生活を経て職員になって私が通感したのは、「会員とは誰か」ではなく、「会員とは何か」でした。開設当初から勤

東陽町コミュニティーセンター

「ニュースポーツ」を通して 地域住民の健康づくりと交流に貢献

東陽町コミュニティーセンターでは、健康づくりと交流促進を目的とした「ニュースポーツ」プログラムを毎月開催しています。「ニュースポーツ」とは、勝敗にこだわらず、年齢や体力、運動経験を問わず、誰もが楽しめるレクリエーション型の軽スポーツです。



6月19日には17人が参加し、和やかな雰囲気の中、北欧発祥の「クップ（屋内用）」を楽しみました。この競技は、スポンジ製の棒を投げて相手陣地のブロックを倒すというシンプルなルールながら、棒が狙った所に行かず、思いどおりにいかない難しさがあります。そこに面白さがあり、「簡単すぎないからこそ面白い」という参加者の声も多く聞かれ、適度な挑戦と達成感を得られる機会として毎回好評を得ています。ゲーム中は、「次はどこを狙おうか」と参加者同士で相談し、自然なコミュニケーションが生まれていました。



また、毎回、東京YMCA社会体育・保育専門学校の学生がボランティアとして参加し、準備体操やルール説明を行うほか、参加者と一緒にプレイしながら交流を深めています。

参加者の多くはリピーターで、毎月欠かさず参加する方も少なくありません。なかには、東陽町センターで実施されている他のプログラムや3階のジムにも通い、ほぼ毎日YMCAに足を運んでいるという87歳の方もいらっしゃいます。YMCAが地域に根差した「日常の場」として定着し、人々の健康や仲間づくりに役立っていることが感じられます。

野の花、空の鳥

東京YMCA総主事
星野 太郎



先日、珍しい方々とてからの友人同士。しかし、両国の立場や状況を考えると、彼らは語ってくれませんでした。必死に今を乗り切ろうとするその姿が目の前でも展開していると感じる朝食は、深く心に残るもの

平和を思う朝食

に、見過ごしてはいけないものがあるように思います。戦後の沖縄の人たちに、日本は平和だと言いつけるでしようか。いまなお被爆の苦しみの中にある人たちに、それはどう聞こえるでしょうか。私たちが語る平和が、空しく響いてしまわないように、この問いを見越すことなく80年目の夏を迎えたいと思います。

そして、私たちYMCAは隔たりを超えて痛みを理解し合い、平和のために食卓を共にできる団体でありたいと心から願っています。

INFORMATION

■早天祈祷会(9月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日 時：2025年9月1日(月)
7:30～8:30

奨励者：李 明生氏(日本福音ルーテルむさしの教会牧師)

会 場：在日本韓国YMCA 9階
※オンラインなし

問合せ：会員部 (03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援くださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら



ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol.29

世界につながるワイズメンズクラブ(2)

大変嬉しいニュースがあります。それは、A・シャナヴァスカーン国際会長とジョーズ・ヴァルギーズ国際書記長が、6月11日に、バチカンでローマ教皇レオ14世と謁見がかなったことです。ワイズメンズクラブ国際協会が世界にさらに認知されるよい機会となりました。

さて、国際会長がバチカンにいたのは偶然ではなく、ローマでイタリア最初のクラブがチャーター(設立)されたからでした。その他、イギリスで3クラブ、ウィーンで1クラブがチャーターされ、北米ではトロントクラブが72年ぶりに再開されました。シャナヴァスカーン会長の任期中に125クラブが新しくチャーターされ、10か国で初めてワイズメンズクラブが拡大されました。会員数も10.2%の増加となりました。

アジア太平洋地域では、ジョン・ウォン地域会長が精力的に区大会に参加し、地域のメンバーの士気高揚に大きく貢献しました。最近では、フィリピン地区大会に田上次期地域会長ともども参加して、ワイズメンズクラブ拡大への働きをしました。マニラ・ダウタウンYMCAやマカティ



フィリピン地区大会にて

ワイズメンズクラブのオリエンテーションがオンラインで開催され、新年度にチャーターが予定されています。このように世界のワイズメンは常に止まることなく、よりよい世界を作るために働き続けています。

元アジア太平洋地域会長 利根川恵子(川越ワイズメンズクラブ)



ローマ教皇に謁見したシャナヴァスカーン国際会長(左)とヴァルギーズ国際書記長(中央)

YMCAの重要な地域奉仕事業に、ワイズメンズクラブとしても支援を強めています。

さらに、台湾から、アジア太平洋地域大会へ70人近い参加者が見込まれています。また、ネパールでは、ワイズメンズクラブとユースクラブの

東京YMCAメルマガ登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けするメールマガジンです。月1～2回の不定期配信。ぜひご登録ください。



登録はこちら

第39回 東京YMCA
インターナショナル・チャリティーラン

障がいのある子どもたちを支援するためのチャリティーイベントです。今年は、駅伝大会と、スマホアプリを利用してオンラインで開催されるウォーキングイベントの両方を実施します。

チームで参加

駅伝大会／オンラインウォーキング

駅伝大会はチーム6人で、オンラインは9日間のチームの一日平均歩数で、それぞれのレースを競います。

【駅伝大会】9月27日(土)

【会 場】都立木場公園

【参加費】1チーム 10万円

※オンライン・駅伝大会の両方にご参加いただけます

【オンラインウォーキング期間】

9月27日(土)～10月5日(日)

9日間

個人で参加

オンラインウォーキング

8日間、自由に楽しくご参加ください。順位は競いません。

【ウォーキング期間】

9月20日(土)～9月27日(土)

8日間

【参加費】2,000円(1人)

※大学生・専門学校生以下の方は無料

9月8日(月)
申込締切



詳細はこちら

体験型活動事業 「青少年指導者のためのスキルアップ講座」

青少年指導者の方を対象とした講座です。常時100種類以上の体験プログラムを指導している高尾の森わくわくビレッジのスタッフが講師となり、実際に体験しながら、プログラム指導のコツや進め方を学びます。内容は参加者の経験に応じて調整するため、初心者にも安心してご参加いただけます。

【クラフト編】では“玉ねぎ染め手ぬぐい”“焼き板”など、気になるクラフトに挑戦。【レクリエーション編】では“アイスブレイク”“グループワーク”に役立つレクリエーションを体験します。

開催日 【クラフト編】10/12(日)
【レクリエーション編】10/19(日)

時 間 10:00-15:00

対 象 青少年指導者、教育関係者、社会教育施設職員等

定 員 20名 ※定員を超える場合は抽選

持ち物 汚れても良い服装、水筒

費 用 【クラフト編】2,200円
【レクリエーション編】1,430円

申込み 8/1(金)～各回7日前までにメールにて申込み
event@wakuwaku-village.com
まで以下の内容をご記入の上ご応募ください

①氏名(ふりがな) ②年齢 ③郵便番号・住所 ④電話番号
⑤青少年指導経験 ⑥お申し込み回(A.クラフト B.レクリエーション)

詳しくはお電話またはフロントにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

☎ 042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55
www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています